

遠野早池峰ふるさと学校の開校式に出席して思ったこと



4月24日に、遠野市附馬牛町の旧大出小中学校を活用した観光交流施設、「遠野早池峰ふるさと学校」の開校式に出席して参りました。

前支署長の、かつて遠野に存在した森林鉄道「附馬牛軌道」の記録写真や当時の空中写真から復元した路線図などの綿密な調査に基づく資料、その仕事ぶりには驚くばかりでした。

詳しくは、岩手日報の記事をご覧ください。

さて、遠野にある百名山、早池峰山への登山道は複数あるのですが、ここ大出やその先の馬留を起点に登山をする方はあまりいないと思います。

全国的にも、アクセスが良くコースタイムの短いルートに登山者が集中し、対してアクセスが不便で長いアルバイトを強いられるコースは、三密を避ける時代でなくとも、めったに人に会わず、利用者がいないとコースの手入れも疎かになっていきます。

登山道の格差です。

また、登山では、地域でお金を使う機会も少なく心苦しいことが多々ありますが、記事には、特産物販売の可能性を探っていくとあります。



休日に徳兵衛山から望む早池峰剣ヶ峰。その先の早池峰山頂までは誰もいませんでした。

レトロ校舎再出発

2007年に閉校した遠野市附馬牛町の旧大出小中を、活用した観光交流施設「遠野早池峰ふるさと学校」が24日、3年ぶりに「開校」する。地元自治会の管理の下、かつて同地域を走った森林鉄道の資料コーナーを新設。学校時代の教材が現存する「昭和の空間」は従来のままに、住民手作りの魅力を発信する場として再出発する。

遠野早池峰ふるさと学校

市中心部から車を走らせ30分余、早池峰山の麓に築70年超の木造平屋の校舎が存在感を放つ。内部は小中学校時代の机や椅子、教材がそのまま残り、レトロな雰囲気包まれる。

前運営者の任期満了に伴い18年度で閉校したが、地元の林管理署遠野支署が全面協力。木材運搬のため昭和初期から約30年間活用された同地帯、観光客や市友好都市の子どもたちと地域住民が昔ながらの生活を体感し、交流を深める施設運営を目指す。学校復活の目玉第一弾とみられる。

あすから 目玉は森林鉄道展

佐々木会長「『学校の近くには観光スポットが充実している。誰もが気軽に立ち寄り、昔懐かしい世界を楽しむ空間にしたい』と意気込

学校内新設された森林鉄道の資料コーナー。懐かしさと新たな発見を楽しめる空間だ。

学校は入場無料。本年度の開校日は11月28日までの土日。午前10時～午後4時。24日寄りの、昔懐かしい世界を楽しむ空間にしたい」と意気込

（小野寺年矢）

岩手日報3年4月23日付朝刊。この記事・写真等は、岩手日報社の許諾を得て転載しています。

このふるさと学校が手作りの登山基地・登山口としての役割も果たせれば、登山利用コースの分散や地域振興にも繋がり良いのだが、と思った次第です。

岩手南部森林管理署遠野支署 支署長 山田亨